

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立伊都中央高等学校 定時制課程 校長名：坂上 裕 昭

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・一人一人の生徒が安心して学ぶことのできる、学校と地域が一体となった、「地域とともにある学校」づくりをめざす。
- ・「志を高く掲げ、将来にわたって豊かな人間関係を築きながら社会を生き抜く力」、「困難に直面しても、あきらめることなく自らの未来を切り拓く力」、「人々との関わりの中で、互いに鍛え合い、支え合い、学び合い社会に貢献する力」を身につけた生徒を育成する。

学校評価の公表方法

学校ホームページにて公表する

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月13日現在）				
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策	
1	多様性を認める教育の推進	B	誰一人取り残さないわかる授業と積極的・協働的に取り組む学校行事等の推進	公開授業の実施による他者による評価 学校評価の実施による生徒による評価	B	授業改善のための校内研修や全生徒が参加しやすい行事の運営に取り組んだ。生徒による評価は向上している。	誰一人取り残さないわかる授業を目指し、県外の先進事例などを取り入れ、授業改善を進める準備ができています。今後は実践を行い、常に探究を深めていく。 地域のボランティア活動や認知症カフェの実現をとおして、地域貢献や多様性を認める土壌ができています。今後はさらに全校への教育効果向上を目指す。	
			地域のボランティア活動への参加	自ら進んで参加を希望する生徒の増加		B		近隣の特別支援学校のボランティア養成講座に過去最多の人数が参加するなど、参加意識の向上が見られた。
			伊都中央カフェの実現	地域と連携し、実現に向けて前進する取組の状況		A		認知症サポーター養成講座の実施や伊都中央カフェの開催をとおして、生徒の成長が見られた。
2	特別支援教育機能の充実	B	個々の生徒の適切なアセスメントと支援体制の構築	適切なケース会議の実施と支援計画の作成状況	B	ケース会議の適宜開催やSSWを活用した支援が行える体制の強化を目標とする研修の実施により個々の生徒への適切な支援を目指した。	様々な支援のあり方に対応するため、関係者や関係機関と連携できた。しかし、多種多様な支援への対応を迫られることから、多忙を極め、見逃されるケースが出るのが懸念される。より高度な体制の構築を研究したい。	
			生徒一人一人に寄り添った、きめ細かな指導とサポート	基礎基本を重視した学習と個々に応じた学習の支援状況		B		支援員のサポートを受けながら個別の対応を強化。実感できる成果がある。
3	外部への発信の強化	B	学校ホームページの充実	コンテンツの充実と適切な更新状況	A	学校情報の適宜発信、学校紹介動画の作成・公開など発信の強化を図っている。	学校ホームページは適宜の更新ができており、コンテンツの充実は進んでいるが、校内外での認知の低さが見受けられる。地域の状況も考慮しながら、適切な発信方法の検討を進める。	
			地域コミュニティを活用した教育活動の発信	適切な時期・方法による発信状況		B		地域公民館からの発信や地域のラジオでのPRなど、その時に応じた媒体を選択し、情報発信に努めた。
4	校務のDX化による働き方改革の推進	C	ICTを活用した会議や事務作業等の効率化	学校評価による教職員の自己評価	B	生徒欠席連絡、打ち合わせや職員会議資料等のDX化。	今後も必要な箇所に適切な方法で進めていきたい。	

学校関係者評価（2月8日実施）

評価

・地域との連携を大切にし、他校種との連携や地域活動への参加など、とてもよく活動できている。

・福祉科の取組も長いものとなってきた。卒業生は就業先でも経験を積み、中堅職員になっている。活躍する卒業生の姿を見た在校生がそれを目標にするという好循環が生まれつつある。また、専門学校との連携や認知症カフェの実現などは高く評価する。さらなるバージョンアップを期待したい。

・教育目標が分かりやすく示され、他校にはない特色があると高く評価されている。

・学校行事の充実について高く評価されている。

課題

・地域の教育力の活用。学校行事の日程の調整などを行うことで地域との連携をさらに深め、「地域から学ぶ」を実践して欲しい。

・授業、進路指導、生徒指導など各教育活動を関連付け、教育効果の向上に取り組んで欲しい。

・教育のICT化が進んでいるが、授業のICT化をさらに進めることで、一人ひとりのこどもに合わせた学習しやすい環境を整えて欲しい。

・地域との連携が進んできている。学校ホームページや地域の回覧板などを活用し、地域に対して学校情報の発信に努めて欲しい。

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立伊都中央高等学校(通信制課程) 校長名： 坂上 裕昭

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
 地域と連携し、自信を育みながら卒業まで導き、社会的職業的自立を支援する学校
 多様な考え方や価値観を理解し、自他を価値ある存在として認め、地域社会で活躍できる生徒

学校評価の公表方法
 ・学校ホームページにて公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（ 2月8日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	多様性を認める教育の推進	C	生徒への声かけや生徒との対話、丁寧な相談、スクーリング等	活動率、受講登録・単位修得生徒数、卒業生徒数	A	活動率等が上昇し生徒に寄り添った丁寧な対応ができた。	学習進捗状況や事前出席連絡についてDX化推進とそのオリエンテーションを実施し利用促進を図る。 クラブ活動への通信制らしい積極的な参加とクラブ活動の充実を図る。 協力企業の取組の推進とその関係の深化を図る。
			特別活動や生徒会活動の充実と生徒参加の呼びかけ	各活動の工夫と通信制行事等への参加状況	B	参加者数は増加したが、一部には課題が残る。	
			就労とクラブ活動による地域貢献	就労の状況とクラブ活動の取組状況	C	クラブ活動は地域への貢献まで至らなかった。	
			地元企業の協力企業化	他と連携し企業への働きかけ	B	数社の協力企業が誕生し生徒の自立支援につながった。	
2	特別支援教育の充実	B	前籍校への聴き取りと対話・相談による生徒理解、丁寧な個別対応	月1回の生徒情報共有会の実施と生徒・保護者による評価	A	生徒情報を共有し丁寧な個別支援ができています。	実態に即した現職教育・会議出席、日頃の連携を通してSCとSSWの心理と福祉の視点を活かした予防的な見地での安心・安全な学校づくりを推進する。 キャリア教育、特に新規中卒生徒に係る取組の工夫充実を図る。
			SSWとSCの福祉と心理の視点による教育活動の専門的支援	関係機関との連携等適切な支援状況	A	チーム学校で専門的な支援ができています。	
			進路希望の把握と企業やハローワーク、上級学校へのアプローチ	生徒に寄り添う進路支援状況	A	就職、進学ともすべて希望進路を実現した。	
			不活動生徒の把握	不活動生徒への年2回の組織的なアプローチ	B	状況を把握し、すべての不活動生徒に登校を促した。	
3	外部への発信の強化	C	学校ホームページの充実	コンテンツの充実と適切な更新状況	B	更新を随時行い充実に努めた。	PVを利用し広報を強化する。
			学校説明会、伊都通報、地域教育コミュニティ等での広報	適切な実施状況	B	一部を改め適宜広報を行った。PVに取り組んだ。	
4	校務のDX化による働き方改革の推進	B	会議や事務作業の効率化	学校評価による教職員の自己評価	B	有効なものはDX化を図った。	従来通りや当たり前を見直す。

学校関係者評価（2月8日実施）	
評価	本校通信制の課題に対応したICTを利用した学びやすさのための取組や自立支援のための「協力企業」等の取組、チーム学校で生徒個々に丁寧に向き合い支援する地道な取組について、概ね高い評価をいただいた。
意見	・事前に計画を共有し擦り合わせすれば地域からもっと手助けできる。 ・地域連携が進んでいるので、HP・回覧板などを用いて地域に学校の情報発信をしていてもらいたい。 ・入院中の生徒に対してICTを活用した授業に取り組んでみてはどうか。